

社会言語学

松田謙次郎
(kenjiro@shoin.ac.jp)

§ 2.7- § 2.8: 言語の死、言語の誕生

2005/5/17

2.7 言語の死

現代言語学の緊急課題: 「絶滅の危機に瀕した言語」

- 世界 6000 もの言語の 90% 近くが現在絶滅の危機にある。
- 政治・経済的に優勢な国家の言語が、その代わりに勢力を伸張
- <http://www.tooyoo.l.u-tokyo.ac.jp/ichel/ichel-j.html>

オーストリア国境のオーバーワートでのドイツ語 / ハンガリー語のせめぎ合い:

- 若者になるに従ってドイツ語使用が増える
- 公的場面、教育などのドメインでドイツ語、私的ドメインでハンガリー語、老人相手にはハンガリー語、若い友人同士ならドイツ語、などと使い分けができ、やがてそれがだんだんにドイツ語によって代わられていく
- つまりハンガリー語 ドイツ語という入れ替わりの過程では、バイリンガルの話者がいて、場面・相手による使い分けが存在する
- 同様な**言語の入れ替わり language shift** は、日本各地の方言 / 共通語の使い分けにも見られる
- ただし日本方言の場合、**新方言**という形で新たな方言形の出現もあり、一方的な方言の消滅ではない(井上史雄)

アメリカインディアン語

- 187 の言語あるが、相互の系統関係はまだはっきりとわかっていない
- しかしすでに中には話者が1人という言語もあり、消滅の危機はかなり深刻

スコットランドのゲール語

- Nancy Dorian によるスコットランド・東サザランド・ゲール語の先駆的研究
- 現在英語に押されて絶滅の危機にあり
- ゲール語 = 漁師とその家族の言語; 「汚い」、「危険」というイメージ
- 閉鎖的な生活 話者数の縮小; 年寄りの話者と**半話者 semi-speaker**

半話者の文法とネイティブの文法はどこが違う?

半話者では**文法の簡略化**が進行している!

複数形: もともとは 11 種類 半話者はほとんど正確にできない

すべての言語は、人間の言語能力(可能な文法の集合)を考える上で非常に重要なデータになる。また、言語は消滅後の復元は不可能なので、消滅の危機に瀕した言語の問題は、言語学にとって非常に大きな課題になる。

2.8 言語の誕生

ピジン pidgin とクレオール creole: ピジンは話者同士の接触によって生まれた混交言語で、いずれの話者にとっても第二言語。これが子の世代になり、母語とする話者が出てくると、クレオールとなる。

ピジン・クレオール研究

- 人間の言語の誕生(言語の発生)を考える上で重要なヒントを与えてくれる。
- 一概にピジン クレオールの変化は非常に速い言語変化。よって言語変化の研究にとっても興味深いデータを提供してくれる。
- さらに母語化されるクレオールの研究では、普遍文法(UG)を考える上でも重要なデータになる。よって生成文法からも注目されるようになった。

ピジンの特徴

- 文法上の活用、語形変化の欠如
- 語彙の貧弱性
- 母語の影響の濃さ

中間言語 interlanguage: 複数言語の地理的、個人的接触によって新しい文法体系を持った言語が作られる時、これを**中間言語**と呼ぶ。第二言語話者の第二言語の文法、ピジン、方言接触によってできる中間的方言、などはすべて中間言語と考えられる。現在社会言語学、言語教育、生成文法など、さまざまな角度から注目されている概念。

ピジン研究の初期から指摘されていた謎 = 世界各地のピジンの類似性
なぜ相互関連のないピジン同士が類似する特徴を持つのか?

バイオプログラム論(Derek Bickerton): 人間には言語を作り出す特殊な才能(バイオプログラミング)が備わっている。よって、これが発現したのが実際の言語なのだから、それらが類似するのは当たり前!

チョムスキーの言語生得説とかなり近い考え。